

## DPC/PDPS コーディングガイドについて（案）

### 1. 背景

- 厚生労働科学研究班（伏見班）が平成 24 年度研究報告書において、「DPC/ PDPS 傷病名コーディングガイド ver. 1.0（以下、「コーディングガイド」という。）」を報告した。
- 平成 24 年度特別調査（アンケート調査・ヒアリング調査）において、コーディングガイドに対する医療機関の意見を調査した。

### 2. 平成 24 年度特別調査（アンケート調査・ヒアリング調査）におけるコーディングガイドに対する主なご意見

- 診療情報管理士や医事課職員が適切なコーディングのため努力しているが、臨床の医師には ICD-10 や DPC 制度があまり浸透していないため、疑義を示しても理解を得ることが容易ではないので、コーディングガイドによって一定の判断基準が示されるのはありがたい。
- 本コーディングガイドによって診療側と審査側の認識が共通化されると思われるので、早期にコーディングガイドが正式リリースされることを望む。
- 医療資源を最も投入した傷病名のコーディング方法については、考え方の優先順位をつける形で原則を示した方が良いのではないか。
- 具体的な事例を豊富に載せると参考になるのではないか。
- 文書ではなく、フロー方式等見易さに工夫が凝らせば普及するのではないか。
- 特に以下のような例でコーディングに苦慮するので判断基準を示してほしい。
  - ・他医療機関で手術を施行し直後に、フォローの為に転院して来た患者のコーディング（例、癌の術後など）
  - ・人工肛門閉鎖術の為の入院のコーディング 等

### 3. 今後の対応（案）

- 次回改定（平成 26 年度）以降の活用に向けて、平成 24 年度特別調査の調査結果等を踏まえて引き続き研究班においてコーディングガイドの見直しを行うこととし、見直し案について今秋をメドに DPC 評価分科会に報告することとしてはどうか。